

植物防疫情報第8号

平成26年3月25日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年産麦類の生育は、冬季の低温の影響は少なく、現在のところ概ね平年並に推移しています。大麦の穂揃期は早いところでは4月の第5半旬頃、小麦は4月の第6半旬～5月の第1半旬頃になると予想されます。**本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期して下さい。**本病は開花期（大麦では穂揃期）から乳熟期に感染し、開花期以降に曇雨天が続く場合には発生が助長されます。

(1) 薬剤による防除法

薬剤散布は大麦では穂揃期とその7～10日後、小麦では開花最盛期頃（出穂7日後頃）とその7～10日後の2回行う。下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。

(2) 防除上の参考事項

- ・大麦の穂揃期または小麦の開花最盛期から20日を過ぎると防除効果は低下する。
- ・大麦では2回目の薬剤散布の方が防除効果は高いので、1回目の散布を行っておらず、すでに大麦の穂揃期を過ぎている場合でも、できるだけ速やかに薬剤散布を行う。
- ・小麦を除く麦類では、トップジンM水和剤及び粉剤では出穂期以降1回しか使用できないので注意する。
- ・収穫後は速やかに乾燥する。

(3) 麦類赤かび病の防除薬剤

(H26.3.19 現在)

薬剤名	散布量・希釈倍率	農薬使用基準	
		時期	回数
サルファーズル	400倍	-	-
コロナフロアブル	400倍	-	-
イオウフロアブル	400～800倍	-	-
トップジンM粉剤DL	3～4kg/10a(小麦) 4kg/10a〔麦類(小麦を除く)〕	収穫14日前まで	小麦: 3回以内(出穂期以降は2回以内), 麦類(小麦を除く): 3回以内(出穂期以降は1回以内)
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで(小麦) 収穫30日前まで〔麦類(小麦を除く)〕	
トップジンMゾル	1,000～1,500倍(小麦) 1,500倍〔麦類(小麦を除く)〕	収穫14日前まで	
トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	
トリフミン乳剤(小麦)	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで(小麦) 収穫14日前まで(大麦)	2回以内
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ベルコート水和剤(小麦)	1,000～2,000倍	収穫21日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで	
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	収穫3日前まで(小麦) 収穫21日前まで(大麦)	小麦:3回以内 大麦:1回以内

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。